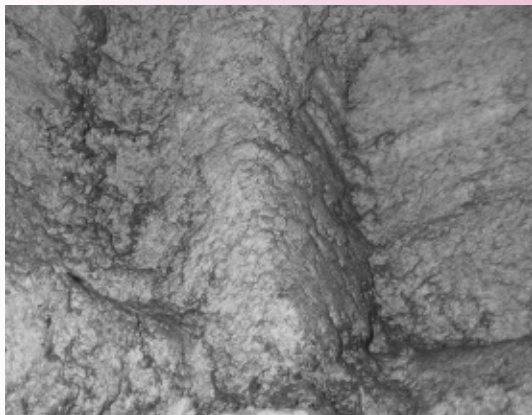




アスベストについての 理解を深めましょう

現在、肺がんや中皮腫などアスベスト（石綿）が原因と見られる健康被害が全国的に波及し、新たな公害として問題となつています。

このことから、市では、アスベスト（石綿）による市民の健康や環境不安に対処するため、庁内に「アスベスト問題対策検討班」を設置するとともに、公共施設についてアスベスト（石綿）の使用実態調査を実施しています。今後、調査結果が明らかになり次第公表します。

今月号では、アスベスト（石綿）についての理解を深めるため、基礎知識を紹介しますので参考にしてください。

◇アスベスト（石綿）基礎知識◇

アスベスト（石綿）とは

アスベストは、鉱物の一種で、「せきめん」「いしわた」と呼ばれ、その構造が繊維のようになっていてという特徴があります。そのため、糸にして布を作ったり、綿のように加工することができます。

アスベストを含む製品は、普通の繊維製品に近い性質を持つているとともに、もともと鉱物であるため、耐火性や耐磨耗性が大きいという性質も持っています。このような性質や安価であるということから、様々な分野で広く使用されてきました。

建築工事の分野では、国の定めた基準の範囲内で、耐火性を求められる部分に多く使われてきました。例えば、鉄骨の上にアスベストを吹き付ける工

法や、アスベストとセメントを混ぜて作った壁材を使用したりすることが一般的に行われていました。その他にも吸音材や屋根材、樹脂と混合したタイルなどに利用されてきました。

しかし、アスベストは様々な健康被害を及ぼす有害物質であるため、アスベストを使用した建物などの解体に伴う飛散の問題があり、代替品の開発や国の製造・使用の規制強化に伴って、今ではほとんど使われなくなりました。

一般の住宅でも アスベストは使われていますか

店舗併用住宅など、鉄骨や鉄筋住宅では、昭和30年頃から50年頃までに建設された建物を主に、H鋼やコンクリートスラブの表面に吹付けアスベストが使われている場合があります。昭和

50年に吹付けアスベストが原則禁止となつてからは、アスベスト含有吹付けロックウールが概ね昭和63年まで使用されてきました。

また、その他の住宅においても、住宅屋根用化粧スレートなどのほか、建築物の外装であるサイディング、外壁や間仕切壁などの押出成形セメント板が最近まで使われていたりしています。（平成16年10月製造等禁止）これらスレートなどの建材は、アスベスト成形板と呼ばれ、非飛散性のアスベストです。

住宅にアスベスト成形板が使われていますが、問題ありますか

アスベスト成形板は、セメントなどで固定されており、切断などをしないかぎり大気中に飛散する可能性は低い。ため、健康影響の心配はありません。解体などの工事については、吹付けアスベストなどと比較して飛散の程度が低いことから、大気汚染防止法の届出対象とはしていません。

しかし、アスベスト成形板も物理的に破壊した際には環境中にアスベストを飛散させる可能性があるため、事前に手作業で除去してから解体することが望ましく、これによらない場合でも、



作業中常に散水し成形板を十分湿らせた状態にして解体する必要があります。

空気中のアスベストの基準は

アスベスト工場やアスベスト製品を加工するときなどに対する規制は、大気汚染防止法により、工場の敷地境界で空気1リットル中にアスベスト繊維10本以下という基準が設けられています。これは工場などに対する規制であるため、事務所や家庭に当てはめることのできる数値ではありません。それでは、どれだけの量ならばよいのでしょうか。

結論から言うと「できる限り少ない量」ということになります。アスベストのように、吸入してしまうと分解できない物質は、だんだん蓄積していくこととなります。その許容量はというと、たくさん吸うことにより、がんになりやすいことは証明されていますが、がんにならない量は、はっきりとわかっていません。それならばゼロにすべきであるとの考え方がありますが、天然の鉱物繊維であり、また、広く使用されていた物質であるため、空气中に浮遊した状態でも外気にもある程度は存在しています。ですからゼロにすることは不可能です。ゼロに近づけるための努力をして、なるべく少なくするのが家庭や事務所での基準であるといえるでしょう。

アスベストが原因で発症する病気は

現在、アスベスト曝露に関連あると確認されている疾病には、次のようなものがあります。

◎肺がん

石綿が肺がんを起こすメカニズムはまだ十分に解明されていませんが、肺細胞に取り込まれた石綿繊維の主に物理的刺激により、肺がんが発生するとされています。アスベスト曝露から肺がん発症までに15～40年の潜伏期間があり、曝露量が多いほど肺がんの発症が多いことが知られています。

◎悪性中皮腫

肺を取り囲む胸膜、肝臓や胃などの臓器を囲む腹膜、心臓及び大血管の起始部を覆う心膜等にできる悪性の腫瘍です。若い時期にアスベストを吸い込んだ方のほうが悪性中皮腫になりやすいことが知られています。潜伏期間は20～50年といわれています。

◎石綿(アスベスト)肺

肺が繊維化してしまう肺繊維症(じん肺)という病気の一つです。肺の繊維化を起こすものとしては、石綿のほか、粉じん、薬品など多くの原因があげられますが、石綿の曝露によっておきた肺繊維症を特に石綿肺と呼んで区別しています。職業上アスベスト粉じんを10年以上吸入した労働者に起こるといわれており、潜伏期間は15～20年といわれています。

市では、アスベストに関する相談窓口を設置しています。
相談がある方は、次の窓口でお尋ねください。

◎建築物に関する相談窓口

施設	相談窓口	連絡先
住宅	建築住宅課	(43)1111 (内線135)
市庁舎	財政課	(43)1111 (内線226)
学校教育施設	学校教育課	(43)1111 (内線213)
社会教育施設	生涯学習課	(43)1111 (内線216・217)

◎周辺環境、廃棄物に関する相談窓口

相談窓口	連絡先	相談対象
地域振興課	(43)1111(内線171)	・石綿製品製造事業場、解体作業現場からの石綿飛散に関すること。 ・廃棄物の運搬、処分及び処理業者に関すること。

◎健康に関する相談窓口

相談窓口	連絡先
健康推進課	(46)5111(代表)